

ロイヤルゼリーについて

ロイヤルゼリーについて

市川治療室 No.37/1993.06

ロイヤルゼリーは働きバチが体内で消化したはちみつを再び口から分泌したものです。

乳白色で、ゼリー上又は液体状で、酸味があり、女王バチの餌として有名です。

ロイヤルゼリーで育った女王バチは働きバチの約三十倍の寿命を持つこと、一年で約二十万個の卵を産むことができるなどという事実からロイヤルゼリーに「神秘の力」を期待して摂取している人は少なくないでしょう。

しかし「女王バチの餌＝人間にとっても効果がある」という考えは次のような理由から素直には受け入れられません。

1. ロイヤルゼリーを食べた幼虫が女王バチになるのではなく、遺伝的にもともと女王バチになる幼虫がロイヤルゼリーを餌として食べると考えられること。
2. 女王バチの幼虫がさなぎになる時には五日間に幼虫の体重の約二倍という大量のロイヤルゼリーを必要とすること。
3. ハチ（昆虫）とヒト（哺乳類）を同じ「種」として考えることは無謀なこと。

『ハチミツ特効薬』（渡辺孝著）には、次のようなロイヤルゼリーの効能が挙げられています。

1. 動脈硬化を予防
2. 血中コレステロールを下げる
3. 手術後の体力回復を助ける
4. 精力を増進する
5. 血圧を正常化する

しかし、これらは特別にロイヤルゼリーでなくてもビタミンを摂取することで期待できるものです。

例えばロイヤルゼリー製品（一瓶中）に含まれているロイヤルゼリーが300gとして その中に含まれているビタミンの量を計算すると次のようになります。

ビタミンB1・・・22mg	ビタミンB2・・・42mg	ビタミンB6・・・150mg
ニコチン酸・・・380mg	イノシトール・・・450mg	パントテン酸・・・660mg
ビオチン・・・12mg	葉酸・・・1.5mg	

製品(300g)中に含まれているビタミンの量と ビタミンの効果を期待できる量(必要量)を計算してみると 五日間で体重の二倍とまでは言いませんが、一日にロイヤルゼリーを一瓶くらいは摂取しなくてはならないでしょう。

石黒伊三雄教授(岐阜薬科大学)はロイヤルゼリーの成分中に パロチン(唾液腺ホルモン)に似た物質を発見しました。

パロチンの主な適応症としては、胃下垂症・筋無力症・変形製膝関節症・高血圧症・動脈硬化症・老人性白内障などが挙げられています。

しかし、パロチンの1日量(60mg)をロイヤルゼリーから摂取しようとする と ロイヤルゼリー 60mg =パロチン60mg とはいきませんので、ハチミツをなめるような感覚でたっぷりと食べなくてはなりません。

パロチンに似た物質としてロイヤルゼリーを摂取することも ビタミンを期待して摂取するのと同様に不可能といわざるをえません。

アドルフ・ブーテナント(ドイツ)は性ホルモンの研究で1939年度のノーベル化学賞を受賞した生化学者です。

彼はロイヤルゼリーに含まれる「プテリン」という物質を発見し、これをロイヤルゼリーの秘密と考えました。

プテリンは葉酸(ビタミンの仲間)の前駆物質で赤血球を作るために必要なものです。

しかしミツバチの体内ではプテリンから葉酸を作ることができても、人間の体内ではそれと同じ代謝が行われているとは考えられないことから ブーテナントはロイヤルゼリーを有益な栄養物と考えませんでした。

ロイヤルゼリーに含まれている成分を考慮してロイヤルゼリーの価値を考えると 日常的にビタミン不足状態の人にはある程度有効と言えますが、 その必要量を考えるとビタミンそのものを摂取したほうがより有効といえます。

・・・それでも女王バチの餌に神秘の力を期待したい人に確実な情報を一つ。
「ロイヤルゼリーを食べてもあなたは女王バチにはなりません」のでご安心を!
